

越前市総合教育会議

外国人向け課程作成

日本語レベル別に対応へ

本年度の第1回越前市の習得レベルに応じた方総合教育会議は9日、市役所で開かれた。日本語の整備など、外国人児童



外国人児童生徒の支援について意見を交わした越前市総合教育会議＝9日、同市役所

生徒への支援強化策など

について協議した。

市教委によると、市内

小中学校にいる外国人児

童生徒は4月7日現在で

182人。日系ブラジル

人が多く、本国から直接

転入する児童生徒や保護

者が増えている。転出入

が頻繁な上、母国語の習

得も不十分な低年齢の子

どもが多く、市全体とし

ての受け入れ態勢の整備

が必要となっている。

このため4月から、小

学校校長OBと日系ブラ

ジル人の通訳1人ずつを

「外国人児童生徒対応支

援員」として市教育振興

課に配置。両支援員を中

心に教育課程を整備す

る。子どもの日本語習得

レベルを四つに分け、各

段階に応じたものを作成

していくという。

また、市教委は外国人

児童生徒の保護者が多く

働く企業の人事担当者と

も連携を図っていく。

同会議は奈良俊幸市長

と、藤原邦有委員長ら市

の教育委員5人で構成。

「外国人の子どもがいる

ことをメリットとして生

かしてほしい」「将来は

定住してほしいという視

点で、きめ細かく取り組

んで」などの意見が出た。

(大谷純平)